



私は今川橋からの景観が好きだ。私の好きな今川橋は地下鉄やバスが走る明治通りに架かったものより、一つ山手側の橋だ。

私は子供の頃、この今川橋近くに住んでおり、今も誘われるように橋に赴く。

今川橋からは北正面に能古島が見える。この島は大きな図体をのっしのっしと運ぶように丸くふくよかに聳える。島の右手には福岡ドームにリゾートホテル、左手には高層ビルディング群を従え、まるで横綱の土俵入り風景のようだ。「いや、そんな仰々しい姿なんか思い浮かべるとカモメが飛び交う。」

島は海の友だち、そして空とも仲良しだ。能古島はでっかいのに、青い海と空がもっと大きく広がる。

視線を下げると、樋井川が清くゆつくりと流れる。近年は、魚の泳ぐ姿が橋上より見えるし、鴨や白鳥も涼しげに泳ぐ。これらの鳥も海風に誘われ、いつの日か能古島まで泳ぎ、そして飛び行くかと思えば、私までが旅情に誘われる。振り向けば油山がさっそうと聳える。

「私の背丈は能古島の比ではないよ。」

と語ってはいそうなほど、緑の稜線が美しい。

私は欄干につかまりながら、はるかな油山に目をやる。かすかに鳥が飛び交うのが見える。

福岡は、海と山に囲まれた素敵な都市だ。

私は自分に納得させながら、もう一度、海の方に身を回す。

今川橋は、黄金の風景がさりげなく豊かに見えるから、私はつい長い長居をしてしまう。

家に帰りつくと、小さな旅をして来た思いだ。

海と山が見える今川橋

宮崎 俊朗 Toshiro MIYAZAKI
福岡市城南区

街の狭間空間から福岡の都市構造をうまく描写した作品である。時代とともに変わる構造物と悠久なる自然とを対比させながら、福岡への愛着を感じさせるとともに、本市が望むべき将来像をも示唆してくれる。

(選考委員 高 泰久)

